

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(水産資源調査・評価推進委託事業 (我が国周辺水産資源))

岡本 満・寺門弘悦・井口隆暉・沖野 晃

1. 目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、石見地域におけるばいかご漁業の漁業実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力量等の提示ならびに漁業情報の提供を行う。これにより、本資源の維持・増大とばいかご漁業の経営安定化を図る。なお、ばいかご漁業全体の調査結果については、後述する「2024 (令和6) 年の漁況」に記載した。

2. 方法

(1) 漁業実態調査

島根県漁獲管理情報処理システムによる漁獲統計と各漁業者が記入した操業野帳を解析し、本種の漁獲動向、価格動向、漁場利用および資源状態について検討を行った。

(2) 資源生態調査

漁業協同組合 JF しまね久手出張所および同仁摩出張所に水揚げされたエッチュウバイについて、各銘柄の殻高を測定し、銘柄別漁獲量から殻高組成を推定した。また、漁獲物を買い取り銘柄別の雌雄比について調査した。

3. 結果

(1) 漁業実態調査

2024 (令和6) 年のばいかご漁業におけるエッチュウバイの漁獲量は 78.4 トン (前年比 90%)、水揚げ金額は 5,565 万円 (前年比 96%) であった。また、平年 (過去 10 年) との比較では、漁獲量は 114%、水揚げ金額は 149% といずれも上回った。

エッチュウバイの銘柄は特大、大、中大、中、小及び豆の 6 銘柄である。全銘柄の平均単価は 710 円/kg (平年比 130%) であり、1998 (平成 10) 年以降では初めて 700 円/kg を上回った。特に小型銘柄は比較的高単価で取引され、小の平均単価は 1,157 円/kg、豆の平均単価は 1,094 円/kg となり、2001 (平成 13 年) 以降、初めて 1,000 円/kg を上回った。

利用した漁場は、江津沖から島根半島沖の水深 180~210 m の範囲に集中していた。

(2) 資源生態調査

資源状態の指標となる 1 航海当たりの漁獲量 (CPUE) は 1,225 kg (平年比 107%) で、2021 (令

和 3) 年から 4 年連続で 1,000 kg を上回った。

1 航海当たりの漁獲個数は約 20 千個 (平年比 100%) であった (図 1)。近年は 1 航海当たりの漁獲量および同漁獲個数とともに増加傾向であり、資源は高水準にあると考えられる。

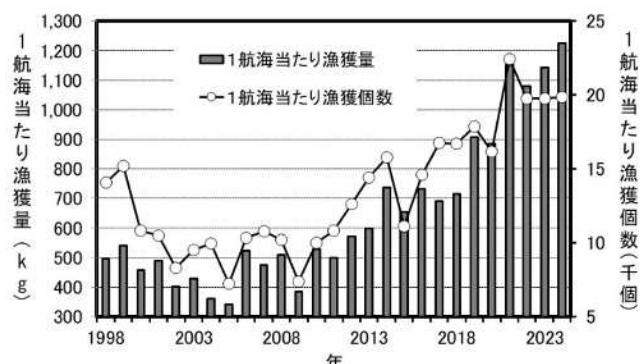


図 1 1 航海当たりの漁獲量および漁獲個数

漁獲物の殻高は 40~124 mm の範囲であった。2016 (平成 28) 年以降 40~80 mm が平年に比べて増加傾向を示していたが、2019 (令和 1) 年からは逆に低下傾向となり、2024 (令和 6) 年も同様の傾向であり、小型群の割合が少ない状態が続いている。

銘柄別の雌雄比については、小型の豆、小、中は雄がやや多かったが、大型になるほど雌の割合が高くなり、最も大型の特大では雌が約 9 割を占めた。

4. 成果

調査で得られた結果は、島根県小型底曳網協議会ばいかご漁業者部会で報告した。調査結果は島根県石見海域におけるばいかご漁業の資源管理協定に基づく自主的管理措置である漁獲量上限の設定等の検討資料として用いられ、同海域のエッチュウバイ資源の持続的利用の推進に役立てられた。